

第3章 市民及び施設利用者のニーズ分析

第3章 市民及び施設利用者のニーズ分析

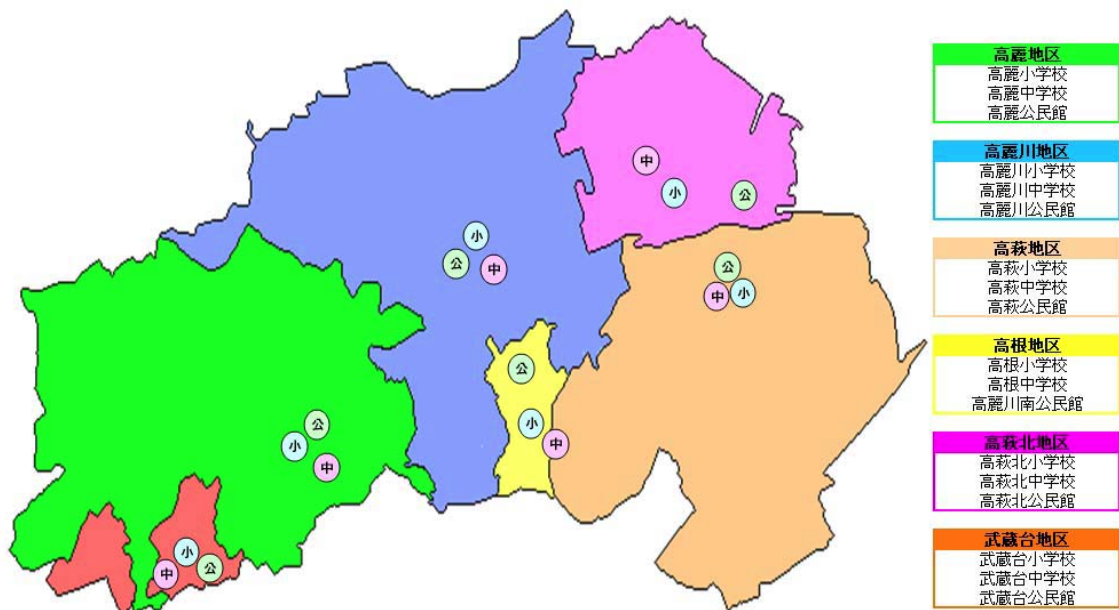
1. 市民アンケート調査概要

(1) 調査概要

公共施設に関する市民ニーズを分析するため、18歳以上の市民2,000人に対してアンケート調査票を送付した。回収率は41%であった。

| | |
|------|---|
| 調査期間 | 平成25年9月10日～25日 |
| 調査対象 | 18歳以上の市民2,000人 |
| 調査方法 | 日高市内に所在する18歳以上の住民の居住する世帯2,000世帯を無作為抽出 |
| 実施方法 | 郵送送付・郵送回収 |
| 回収率 | 41%、820票 地区別回収数：(高麗地区165票、高麗川地区143票、高萩地区165票、高根地区92票、高萩北地区77票、武蔵台地区150票、地区無回答28票) 地区別回収率：(高麗地区49.5%、高麗川地区42.9%、高萩地区49.5%、高根地区27.5%、高萩北地区23.1%、武蔵台地区45.0%) |

【地区区分】

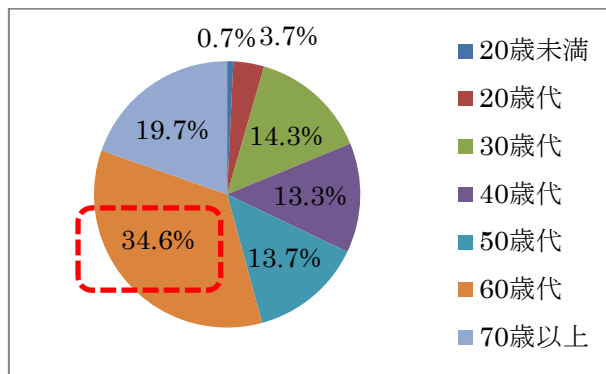


(2) 市全域に関わる分析

①回答者属性

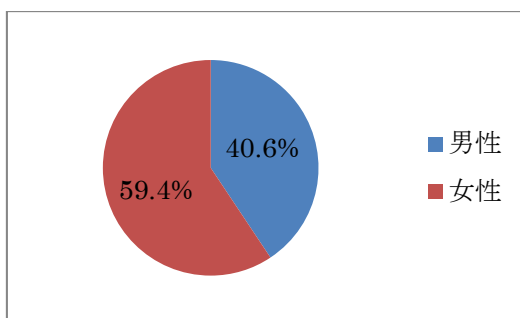
年齢は、60歳代が全体の3割を占めている。

図表3-1 回答者の年齢構成



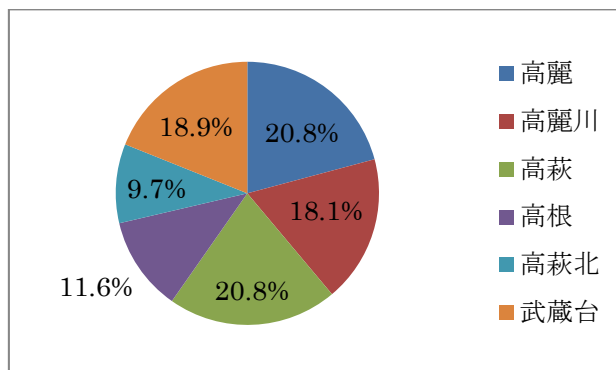
性別は、女性が6割である。

図表3-2 回答者の性別



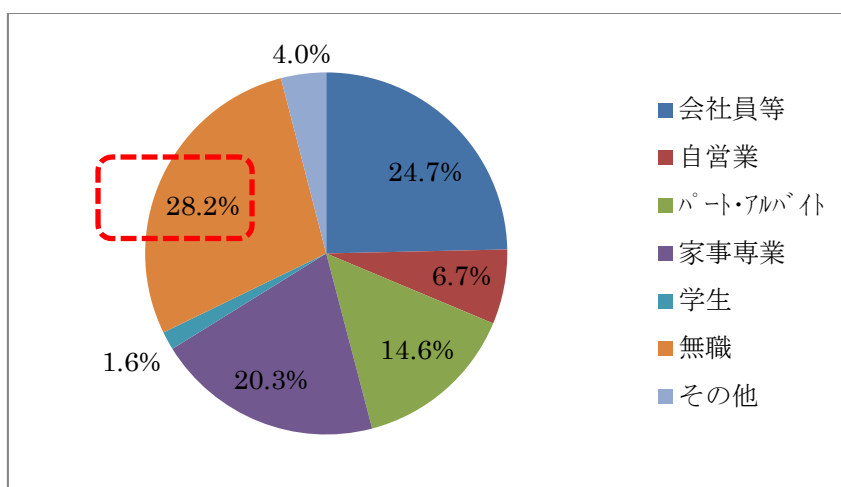
居住地区（学校区）は、「高根」と「高萩北」が少ない。

図表3-3 回答者の居住地区(学校区)



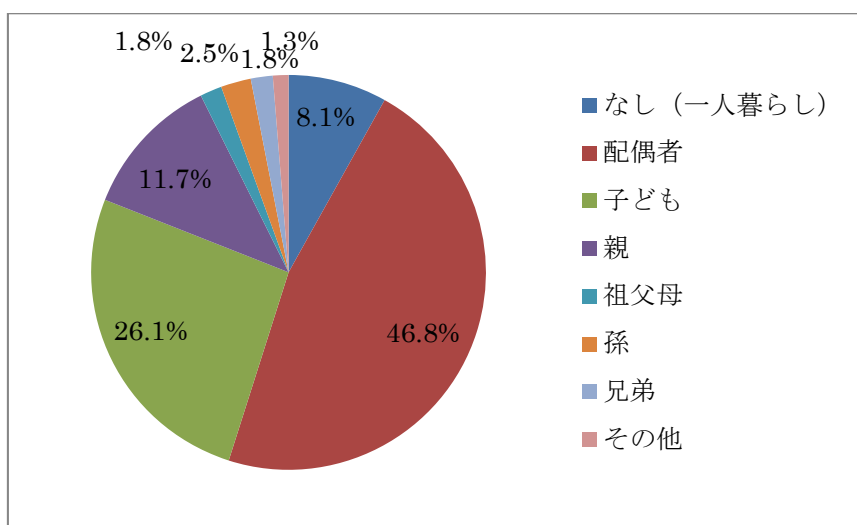
職業は、「無職」、「会社員等」、「家事専業」の順に割合が高く、年齢と相関があると思われる。

図表3-4 回答者の職業



同居の家族は、「配偶者」、「子ども」の割合が高い。

図表3-5 回答者の同居家族



②公共施設サービスの利用状況

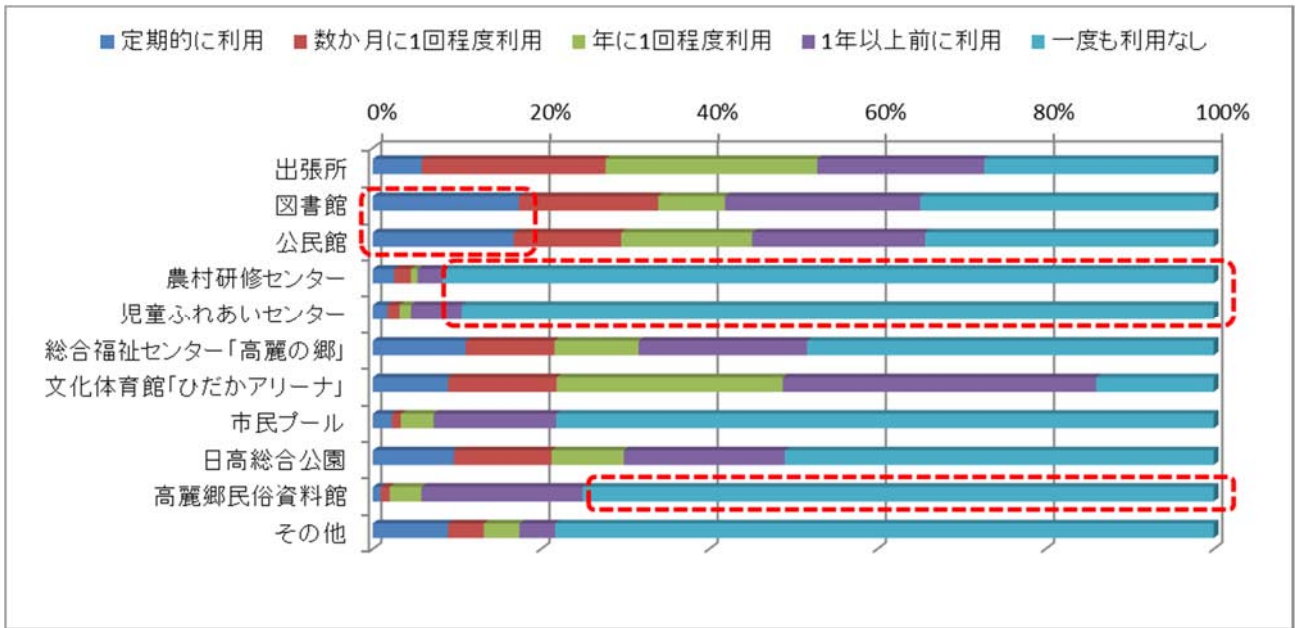
「図書館」と「公民館」は「定期的に利用」の割合が高い。また、「農村研修センター」、「児童ふれあいセンター」は「一度も利用したことがない」の割合が高い。

「高麗郷民俗資料館」について、住民による利用状況は低いものの観光客の利用については考慮の必要がある。

「児童ふれあいセンター」については児童厚生施設であり、回答者の年齢構成を考慮する必要がある。

「農村研修センター」については農業振興のための施設であり、利用対象者が限定されていることを考慮する必要がある。

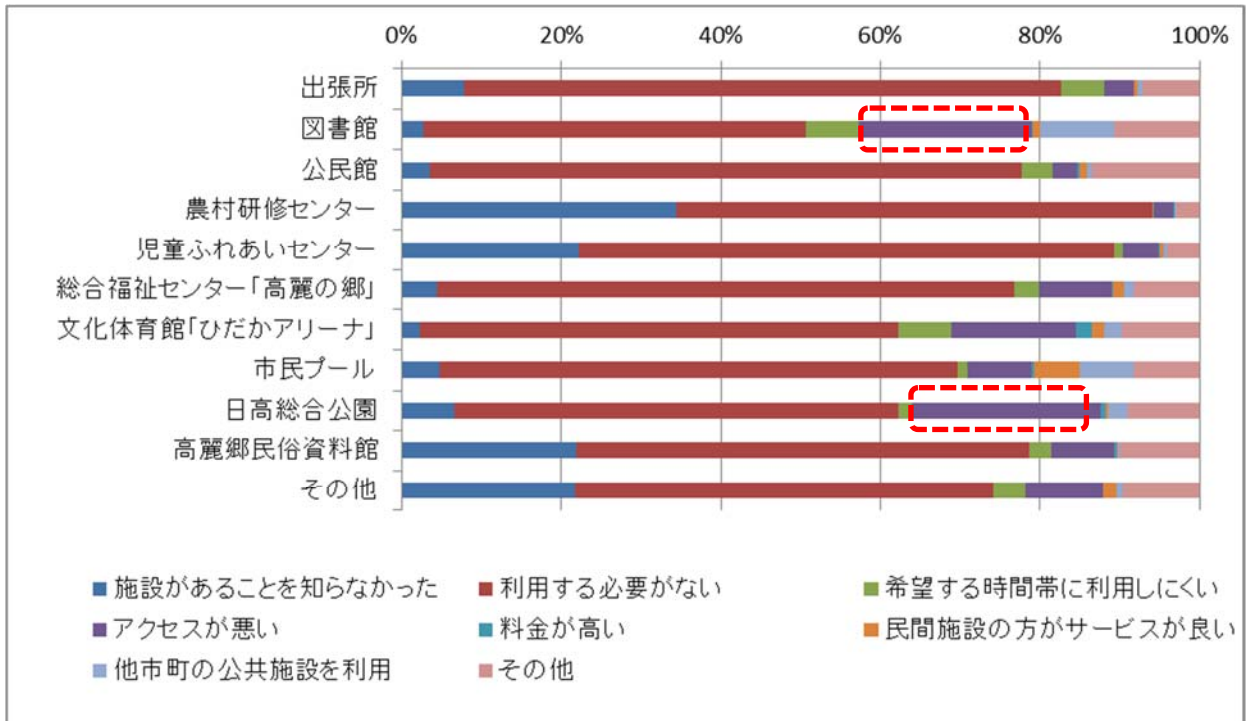
図表3-6 公共施設サービスの利用状況



③施設を利用しない理由

「図書館」と「日高総合公園」への「アクセスが悪い」と感じている人が2割いる。

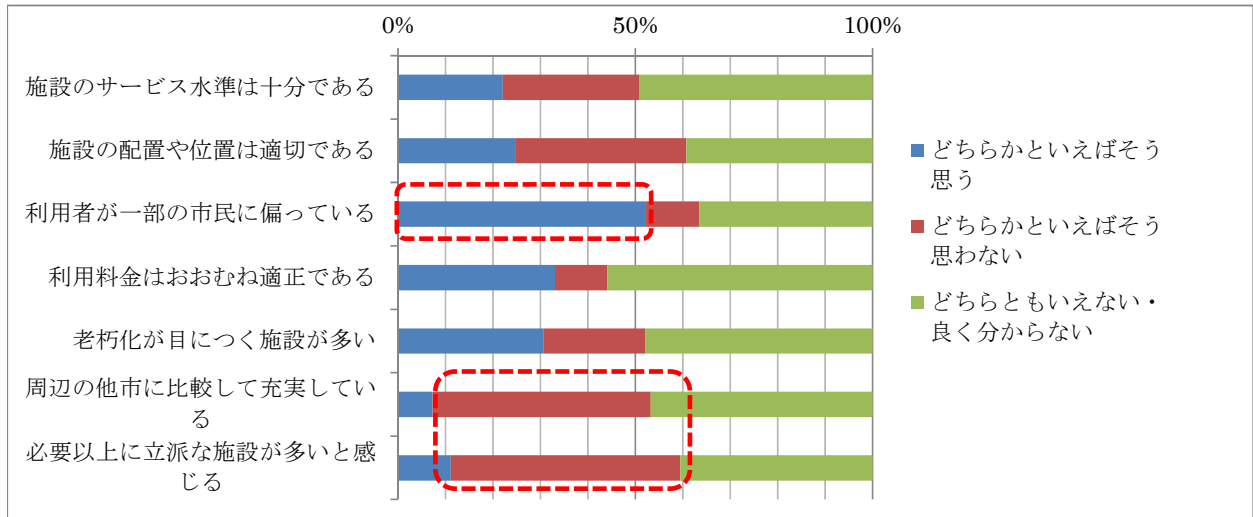
図表3-7 施設を利用しない理由



④公共施設サービス全般に対する思考

「利用者が一部の市民に偏っている」と考える人が5割以上である。また、「周辺の外市に比較して充実している」、「必要以上に立派な施設が多い」と考えている人は少ない。

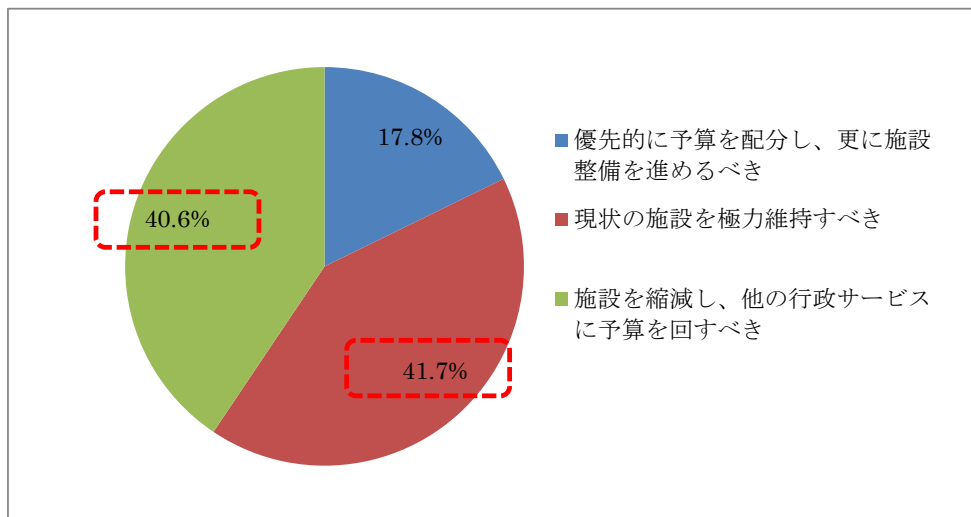
図表3-8 公共施設サービス全般に対する思考



⑤今後の公共施設全体の方向性

「現状の施設を極力維持すべき」「施設を縮減し、他の行政サービスに予算を回すべき」がほぼ同数である。

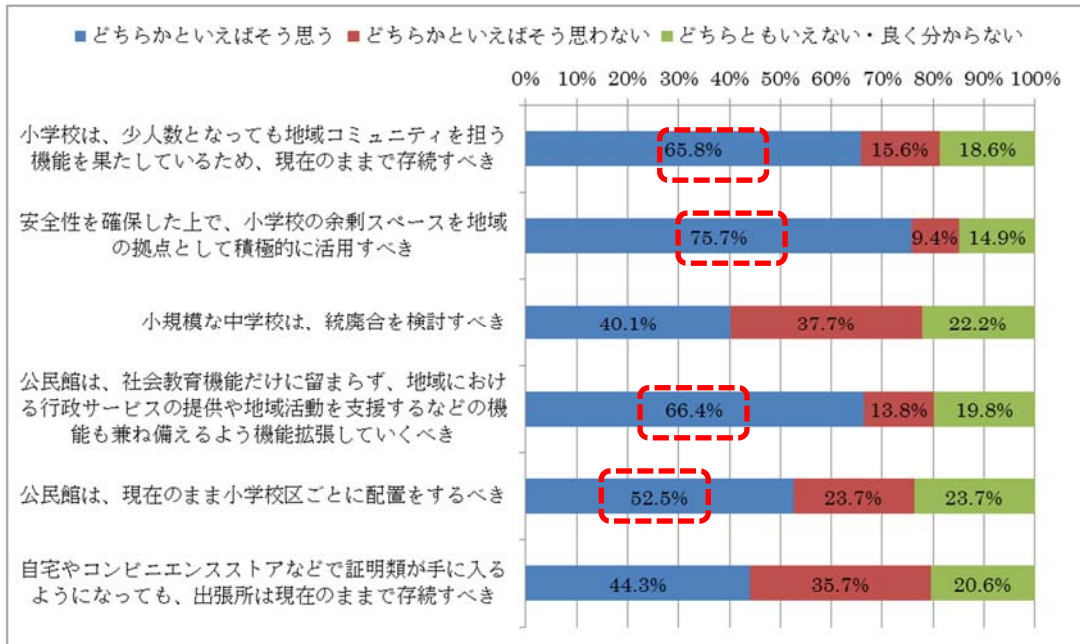
図表3-9 今後の公共施設全体の方向性



⑥今後の公共施設の方向性（個々の施設について）

「小学校の余剰スペースを地域の拠点として積極的に活用すべき」と「公民館を機能拡張すべき」という意見の割合が高く、小学校や公民館をそのまま存続させる希望は多い。

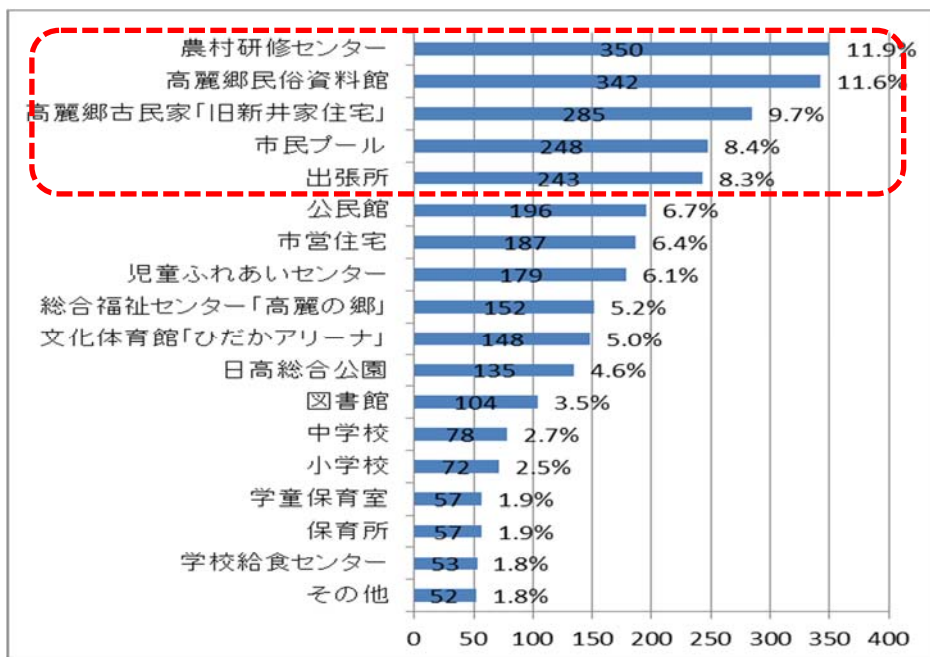
図表3-10 今後の公共施設の方向性（個々の施設について）



⑦見直すべき施設

「見直すべき施設」の上位は、利用状況において「一度も利用したことがない」（図表3-6 参考）施設との相関が見受けられる。

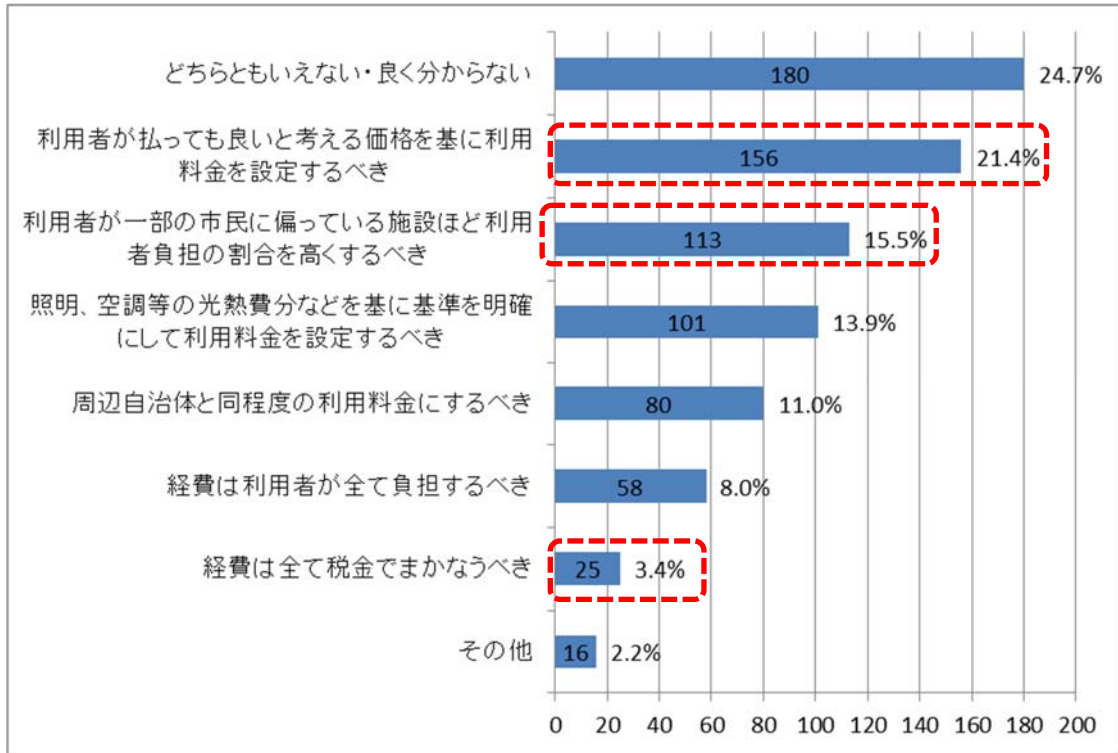
図表3-11 見直すべき施設



⑧現在の公共施設利用料金に対する意見

利用料金に対する意見は「利用者が払っても良いと考える価格を基に利用料金を設定すべき」という意見が最も多く、「全て税金でまかなうべき」が最も少ない。また、「利用者が一部の市民に偏っている施設ほど利用者負担の割合を高くするべき」という意見も上位である。

図表3-12 現在の公共施設利用料金に対する意見

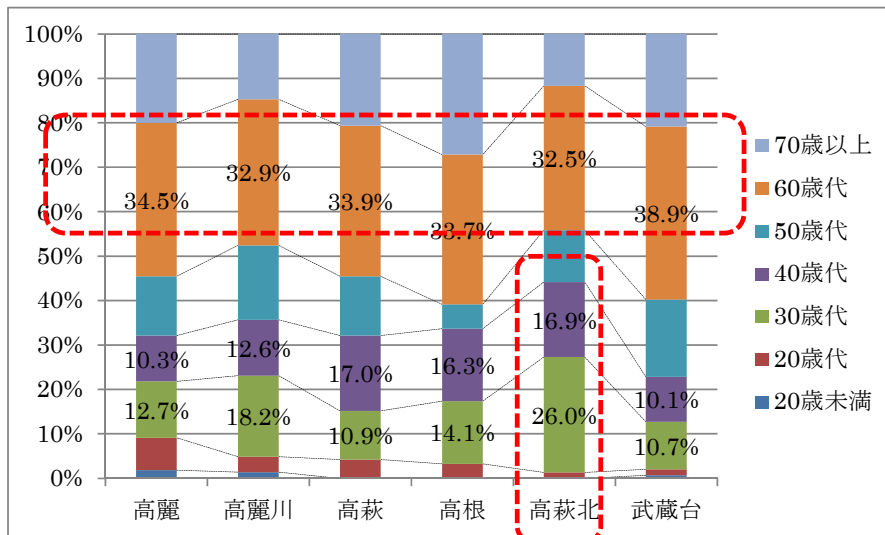


(3) 地区別の比較分析

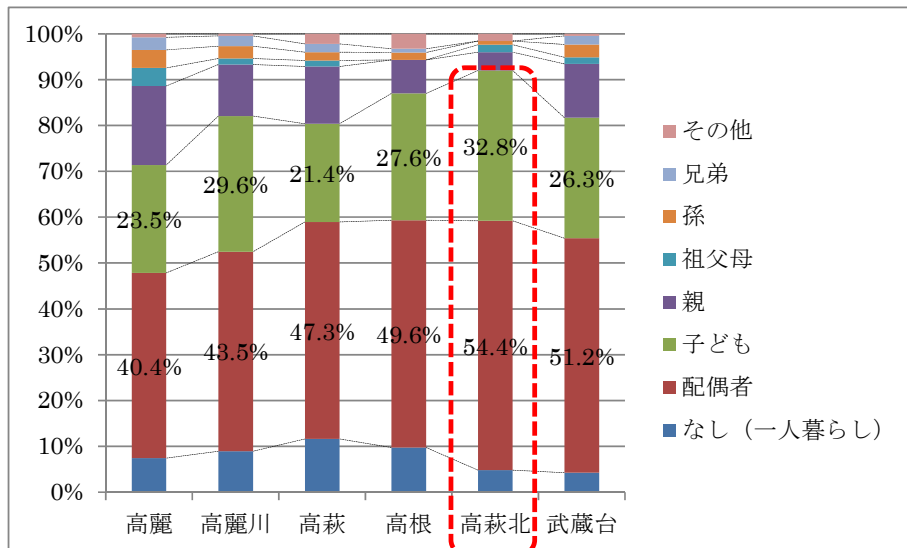
①回答者の属性比較

回答者の年齢において60歳代はどの地区でも一定の割合がある。高萩北地区では比較的30歳代~40歳代の割合が高く、同居家族も配偶者、子どもが多いことから土地の規制緩和時代に入流入した若年層のファミリーが多いのではないかと推察することができる。

図表3-13 回答者の年齢構成(地区別割合比較)



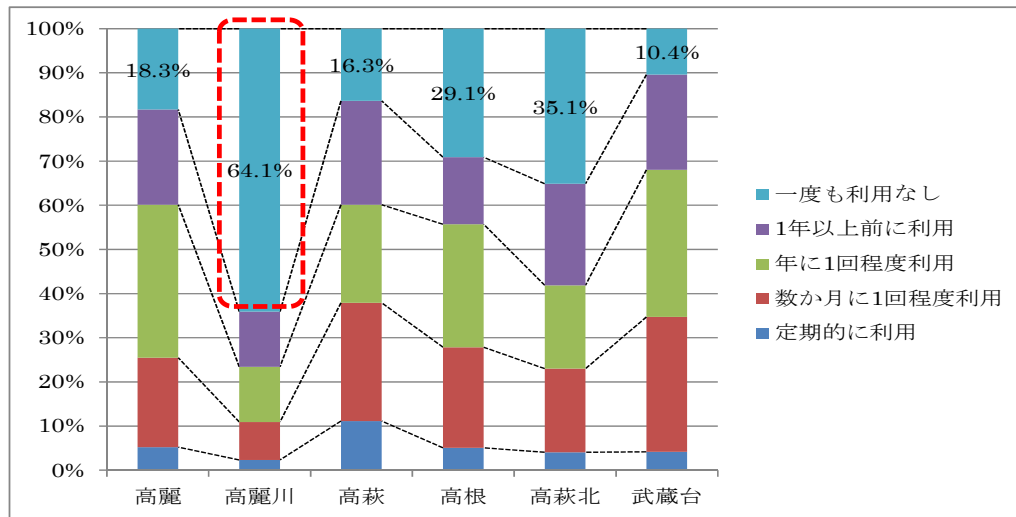
図表3-14 回答者の同居家族(地区別割合比較)



②公共施設サービスの利用状況（「出張所」を「一度も利用なし」の地区別割合比較）

高麗川地区において「一度も利用なし」が64.1%を占めている。また、高麗川地区では「施設を利用しない理由」として「利用する必要がない」が86.0%となっている。高麗川地区には市役所があることから出張所が配置されておらず市役所を利用していることからこのような結果となったと推察される。

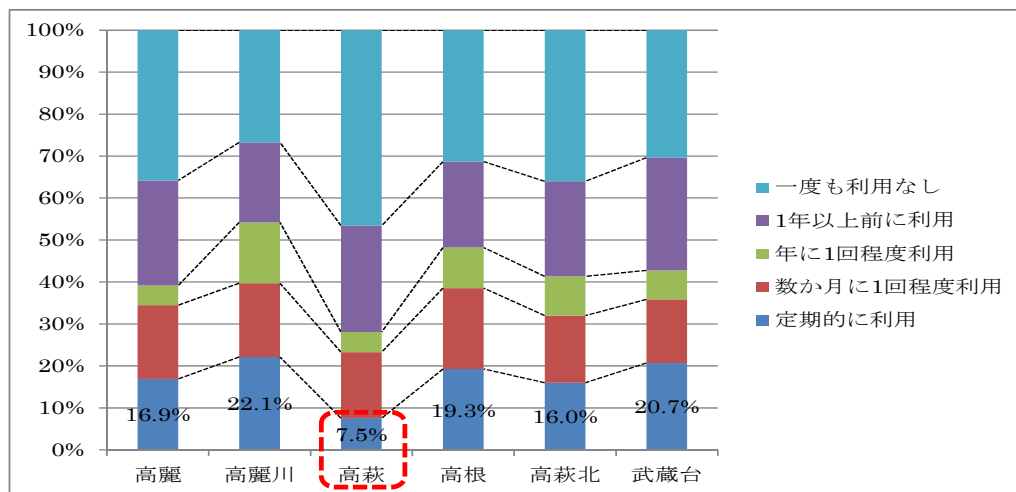
図表3-15 出張所の利用状況比較



③公共施設サービスの利用状況（「図書館」を「定期的にご利用」の地区別割合比較）

他の公共施設と比べて図書館はどの地区でも一定の「定期利用」があるものの、高萩地区ではその割合が低い。また、高萩地区において図書館を「施設を利用しない理由」として「アクセスが悪い」が21.7%となっており、図書館は高麗川地区にありアクセスが不便なため定期利用が少ない可能性がある。

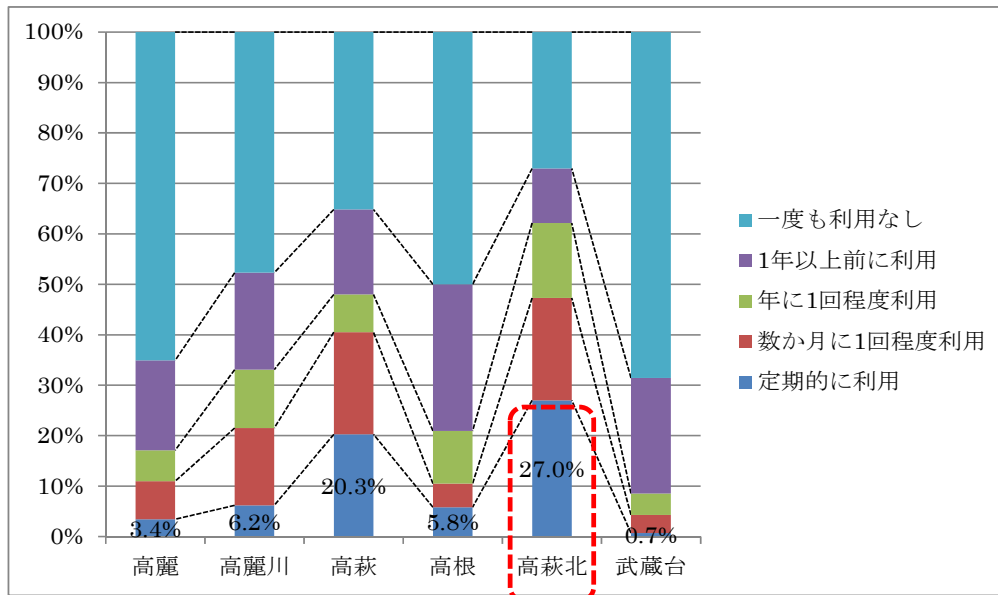
図表3-16 図書館の利用状況比較



④公共施設サービスの利用状況（「日高総合公園」を「定期的にご利用」の地区別割合比較）

高萩地区、高萩北地区で日高総合公園の「定期利用」の割合が高い。また、高萩北地区で最も定期利用が多い背景として、日高総合公園は高萩地区にあるものの、すぐ北側は高萩北地区であるという地理的な要因とともに、土地の規制緩和時代に若年層のファミリーが多く流入した地区であり、屋外公園として家族連れの利用が多いと推察される。

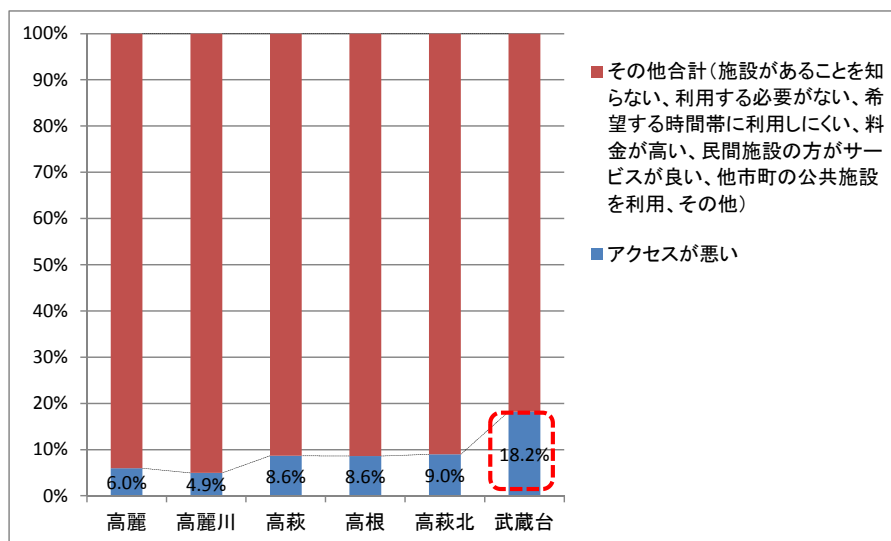
図表3-17 日高総合公園の利用状況比較



⑤施設を利用しない理由（「アクセスが悪い」の地区別割合比較）

調査対象とした公共施設について「利用しない理由」を地区ごとにおこなってみると、武蔵台地区では「アクセスが悪い」という理由が多くなっている。

図表3-18 施設を利用しない理由比較

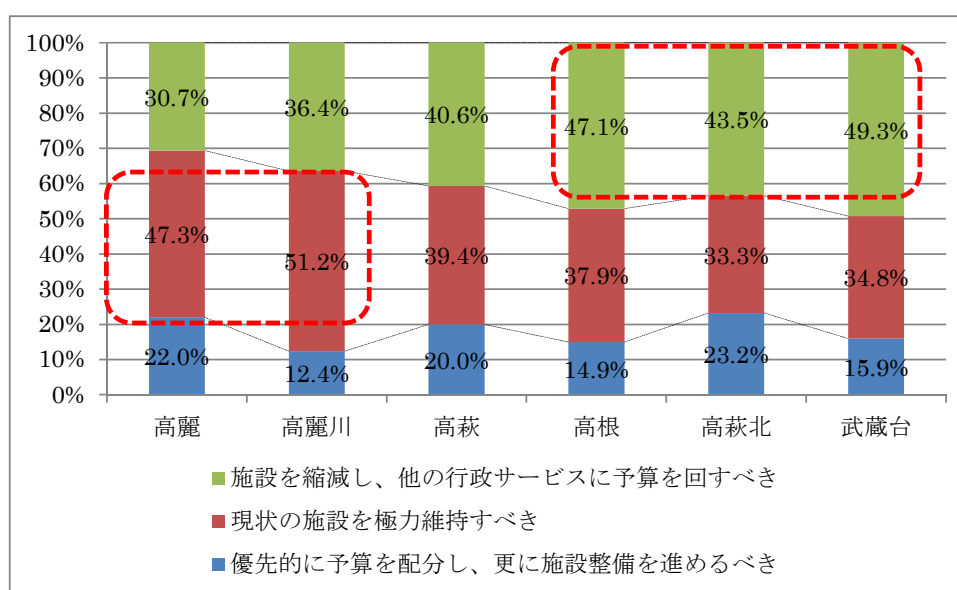


⑥今後の公共施設全体の方向性（地区別割合比較）

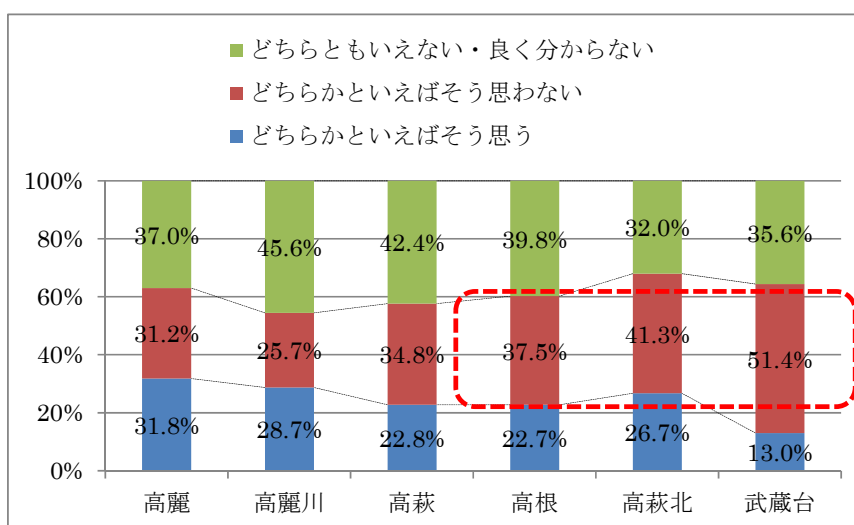
今後の公共施設全体の方向性では高麗地区、高麗川地区で「現状維持」が多数である一方、高根地区、高萩北地区、武蔵台地区では施設を縮減し、他のサービスに予算を回すように考える割合が高い。

また、「施設の配置や位置が適切であるか」という問いに対して後者の3地区（高根、高萩北、武蔵台）では「どちらかといえばそう思わない」という回答が多く、現在の公共施設の配置や位置を適切と考えおらず不便に感じていても「現状維持」よりも「他の行政サービスに予算を回すべき」という思考の割合が高いという仮説が考えられる。

図表3-19 今後の公共施設全体の方向性比較



図表3-20 公共施設サービス全般に対する思考(「施設の配置や位置は適切か」)地区別割合比較

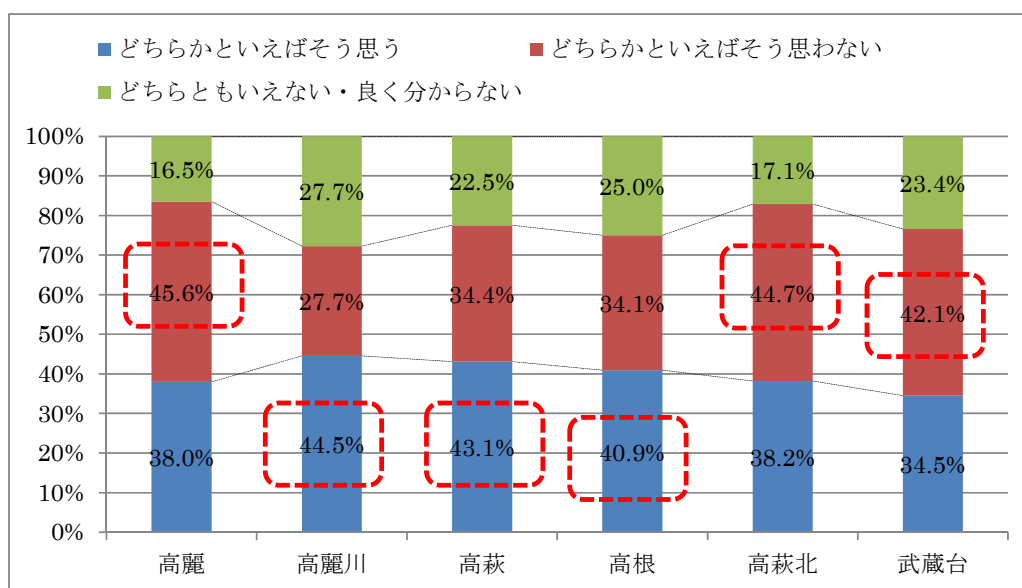


⑦今後の公共施設の方向性（個々の施設－中学校の統廃合の検討の地区別割合比較）

「小規模な中学校は、統廃合を検討すべき」という問いでは、どちらも差は小さいものの、高麗川地区、高萩地区、高根地区では「どちらかといえばそう思う（＝統廃合を検討すべき）」という回答割合が高く、高麗地区、高萩北地区、武蔵台地区では反対の結果（＝統廃合を検討すべきでない）であった。

この結果は中学校の規模（生徒数）とも関連がある可能性がある。中学校の規模が大きいのが、高麗川、高萩、高根である。高萩北は若年層のファミリーが流入したため、現在急速に生徒数が増えている。一方で、高麗、武蔵台は高麗川の4分の1程度の生徒数である。ここから推察するに、比較的規模の大きい地区では、「自分の地区の中学校は統廃合の対象とならない」という心理が働き、「統廃合を検討すべき」について前向きな意見が多いが、反対に規模の小さい地区や若年層が多い地区では、「自分の地区の中学校がなくなってしまう」という心理から「統廃合を検討すべきでない」という意見が多くなっていると推察できる。

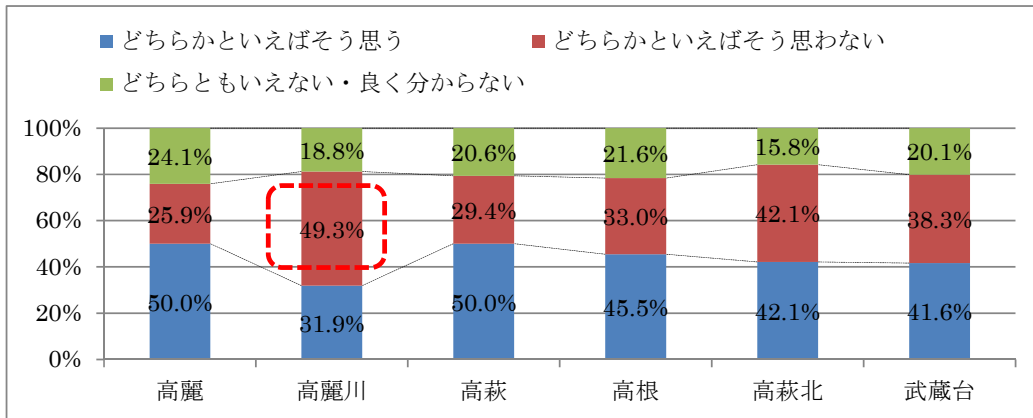
図表3-21 今後の中学校の方向性（「小規模中学校の統廃合を検討すべき」地区別割合比較）



⑧今後の公共施設の方向性（個々の施設－出張所存続の地区別割合比較）

高麗川地区において「自宅やコンビニエンスストアなどで証明書類が入手できるようになって出張所は存続すべき」という問いに対して「どちらかといえばそう思わない（＝存続すべきでない）」の割合が高く、「(1) 出張所を一度も利用なし」の割合が高かったことから市役所が近く利便性が高いことからこのような結果となったと推察される。

図表3-22 今後の出張所の方向性(「自宅等で証明書類が入手可能になっても出張所は存続すべき」地区別割合比較)



⑨見直すべき施設 (公民館—地区別意見数比較)

他の公共施設と比べて公民館はどの地区でも一定の「定期利用」がある。また、「公民館は、現在のまま小学校区ごとに配置をするべき」という問いに対する回答割合でも「どちらかといえばそう思う」が高い割合を占めている。

一方で、見直すべき施設として上位にランキングされている施設は「公共施設サービスの利用状況」において「利用が少ない」施設という傾向が見受けられたが、どの地区でも一定程度の「定期利用」のある公民館も見直すべき施設の中位にランキングされている。

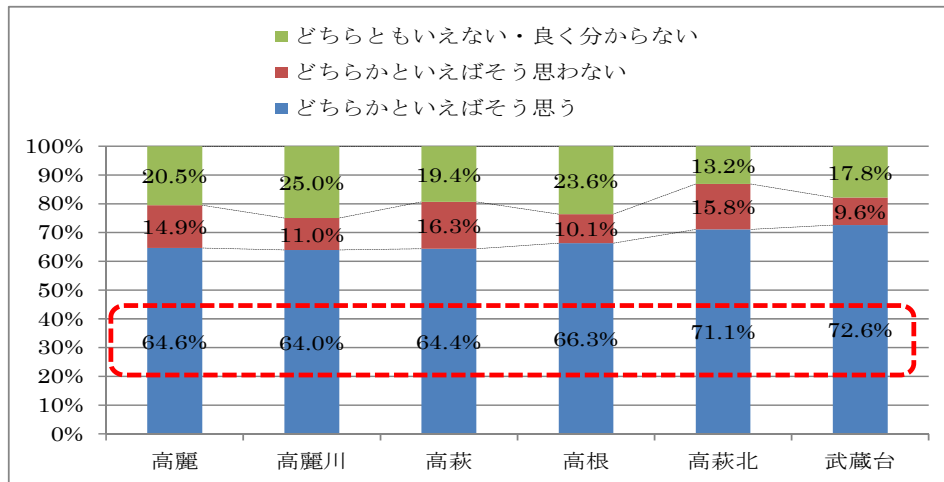
このことから、公民館は現在の小学校区ごとに配置しつつ、社会教育機能だけにとどまらず機能拡張するような見直しが求められていると推察される。

図表3-23 見直すべき施設として意見数が多いランキング(選択肢 18 施設のうち上位 10 位)

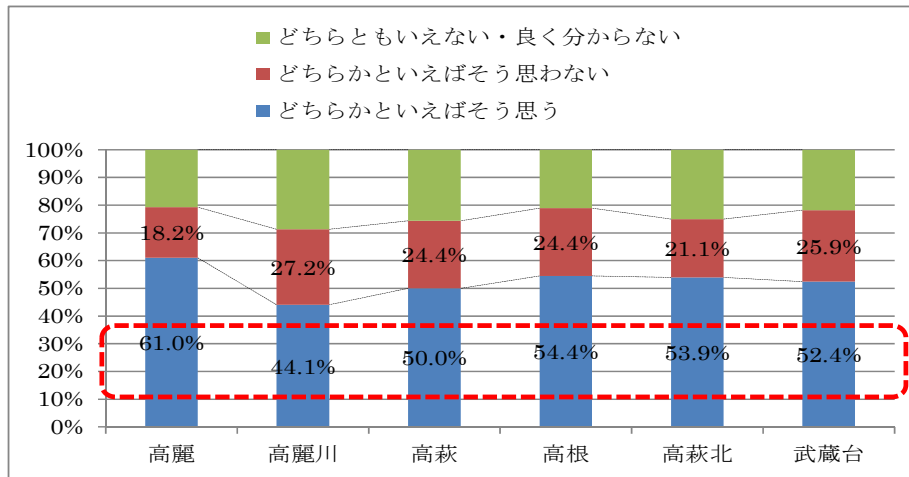
| 高麗地区 | 意見数 | 高麗川地区 | 意見数 | 高萩地区 | 意見数 |
|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|
| 高麗郷民俗資料館 | 68 | 農村研修センター | 61 | 農村研修センター | 72 |
| 農村研修センター | 66 | 高麗郷民俗資料館 | 56 | 高麗郷民俗資料館 | 71 |
| 高麗郷古民家 | 57 | 出張所 | 50 | 高麗郷古民家 | 55 |
| 市民プール | 56 | 高麗郷古民家 | 49 | 出張所 | 51 |
| 市営住宅 | 37 | 公民館 | 34 | 市民プール | 51 |
| 出張所 | 36 | 児童ふれあいセンター | 30 | 公民館 | 48 |
| 公民館 | 35 | 市民プール | 30 | 市営住宅 | 47 |
| 文化体育館 | 32 | 日高総合公園 | 26 | 児童ふれあいセンター | 39 |
| 日高総合公園 | 31 | 総合福祉センター | 24 | 総合福祉センター | 33 |
| 総合福祉センター | 30 | 文化体育館 | 22 | 図書館 | 27 |

| 高根地区 | 意見数 | 高萩北地区 | 意見数 | 武蔵台地区 | 意見数 |
|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|
| 高麗郷民俗資料館 | 37 | 農村研修センター | 38 | 農村研修センター | 68 |
| 農村研修センター | 35 | 高麗郷民俗資料館 | 33 | 高麗郷民俗資料館 | 66 |
| 高麗郷古民家 | 34 | 出張所 | 28 | 高麗郷古民家 | 58 |
| 市民プール | 29 | 市民プール | 25 | 市民プール | 51 |
| 出張所 | 23 | 市営住宅 | 25 | 出張所 | 49 |
| 児童ふれあいセンター | 22 | 高麗郷古民家 | 24 | 児童ふれあいセンター | 43 |
| 文化体育館 | 21 | 公民館 | 16 | 文化体育館 | 38 |
| 公民館 | 19 | 図書館 | 12 | 公民館 | 37 |
| 日高総合公園 | 19 | 児童ふれあいセンター | 12 | 総合福祉センター | 34 |
| 市営住宅 | 18 | 総合福祉センター | 10 | 市営住宅 | 33 |

図表3-24 今後の公共施設の方向性(公民館の機能拡張の地区別割合比較)



図表3-25 今後の公共施設の方向性(公民館の小学校区ごと配置の地区別割合比較)



(4) 市民アンケート調査結果から考えられる施策の方向性仮説

公共施設サービスの利用状況や認知状況が低かった施設及び見直すべき施設として意見が多かった施設を優先的に見直すことが市民の理解を得られやすいものと考えられる。

小学校は、現在のまま存続しながら、余剰スペースについては地域の拠点として活用していく方向性がニーズにあった施策と考えられる。中学校は、小学校と比較して統廃合を検討することに対して前向きな地区もあるが、小規模の中学校の地区では統廃合するべきでないという考えが強いため、地区別の特性をしっかりと把握して検討を進めていく方向性が考えられる。

公民館は、どの地区においても、他の施設に比べ一定の定期利用があることから、現在の小学校区ごとに配置しつつ、社会教育機能だけにとどまらず機能拡張していく方向性がニーズにあった施策であると考えられる。

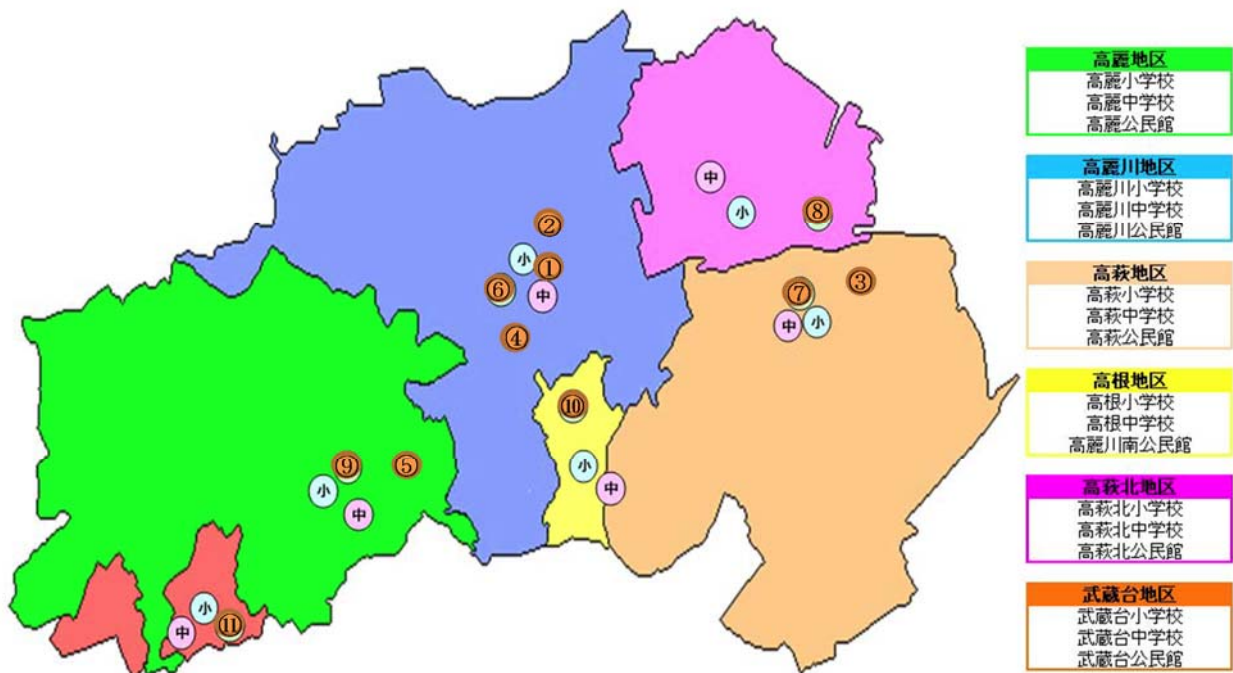
2. 利用者アンケート調査概要

(1) 調査概要

市内 11 の公共施設において、施設利用者を対象とした利用者アンケートを実施した。

| 施設名 | 調査期間 | 対象者 | 実施方法 | 回収数 |
|----------------------|-----------------------------|-------|----------------|-----|
| ① 市民プール | 平成 25 年 7 月 20 日～8 月 16 日 | 施設利用者 | 利用者に直接 記入依頼 | 550 |
| ② 文化体育館「ひだかアリーナ」 | 平成 25 年 10 月 16 日～11 月 15 日 | | | 186 |
| ③ 総合公園 | | | | 121 |
| ④ 図書館（貸館） | | | | 33 |
| ⑤ 総合福祉センター「高麗の郷」（貸館） | | | | 437 |
| ⑥ 高麗川公民館 | | | | 43 |
| ⑦ 高萩公民館 | | | | 60 |
| ⑧ 高萩北公民館 | | | | 53 |
| ⑨ 高麗公民館 | | | | 55 |
| ⑩ 高麗川南公民館 | | | | 41 |
| ⑪ 武蔵台公民館 | | | | 84 |

【施設位置図】

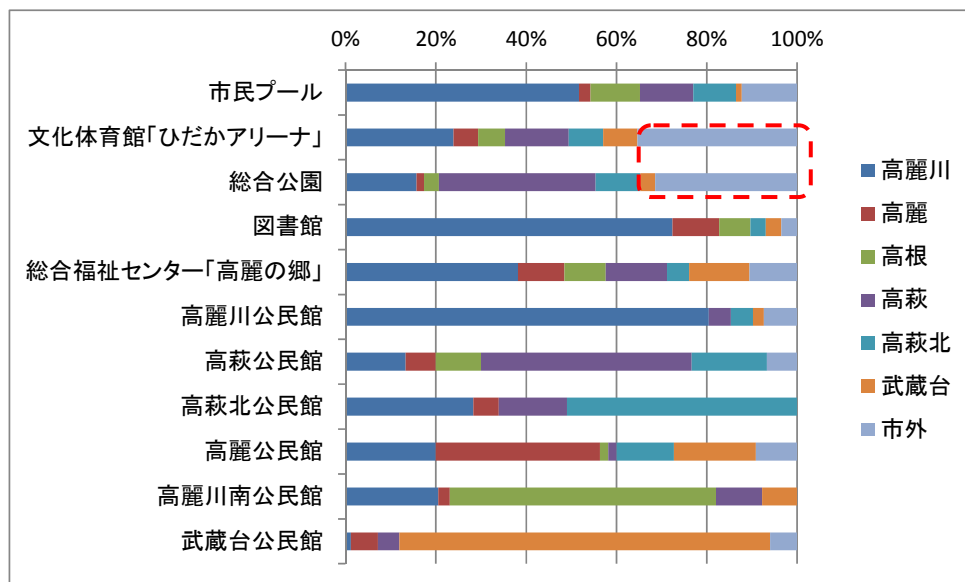


(2) 比較分析

①居住地区

基本的に居住地区にある施設を利用している。文化体育館「ひだかアリーナ」、総合公園は他の施設に比べ市外の利用者が多い。

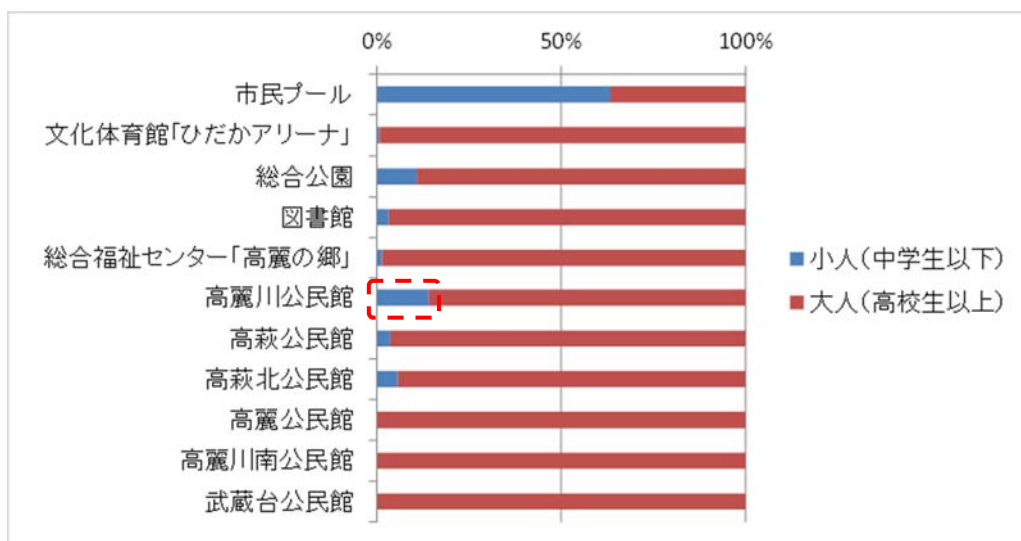
図表3-26 利用者の居住地区比較



②利用者層区分

市民プールを除いて、大人の利用が多くなっている。公民館の中で、高麗川公民館だけ他の公民館と比較して小人の利用割合が高くなっている。

図表3-27 利用者層の区分比較

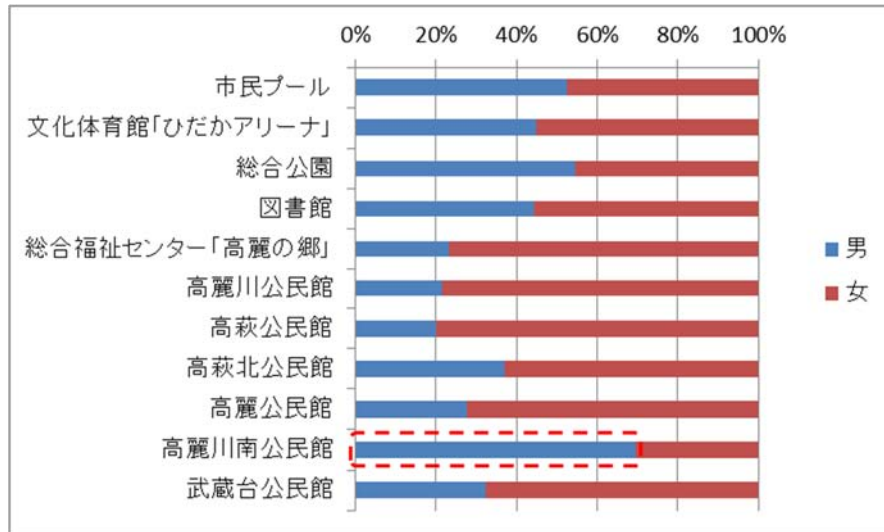


③性別

公民館の中で、高麗川南公民館だけ男性の利用者が多い。

ただし、アンケートの配布方法やその時期の事業等の影響も考慮する必要がある。

図表3-28 利用者の性別比較

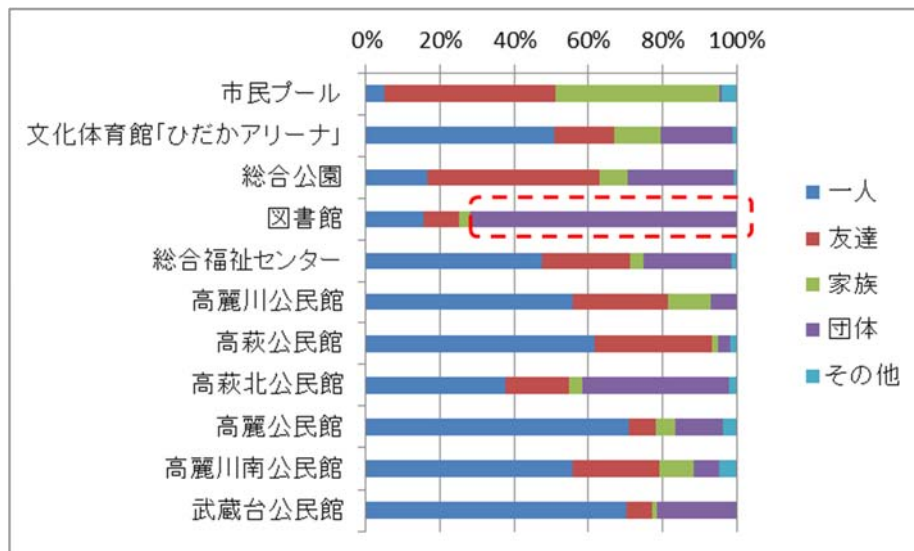


④同伴者

図書館（貸館）は団体が多く、公民館は施設により一人、団体などばらつきがある。

図書館は貸館のみの調査であるため、団体利用が多いものと推測される。

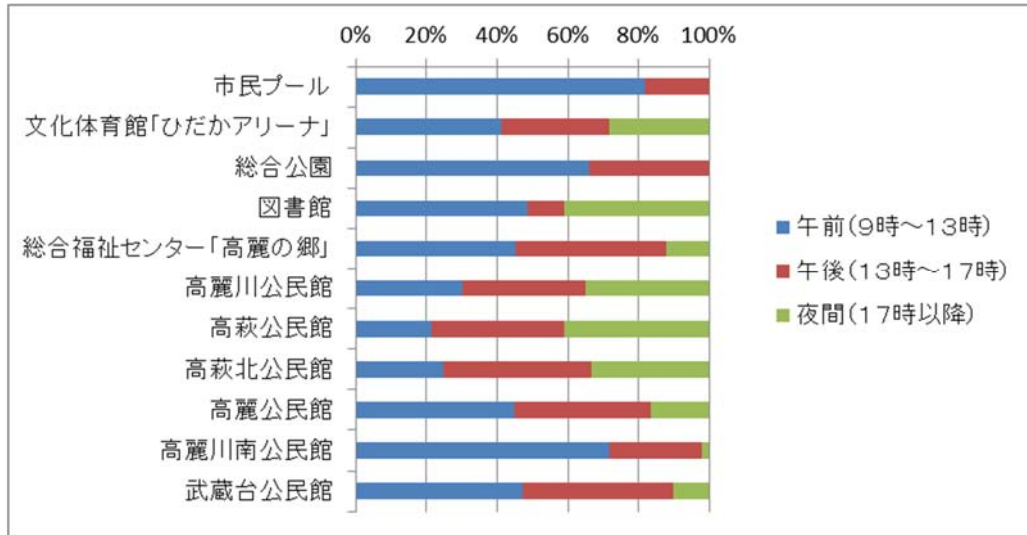
図表3-29 利用者の同伴者比較



⑤利用時間帯

公民館同士を比較しても利用時間帯に相関性はあまり見られない。

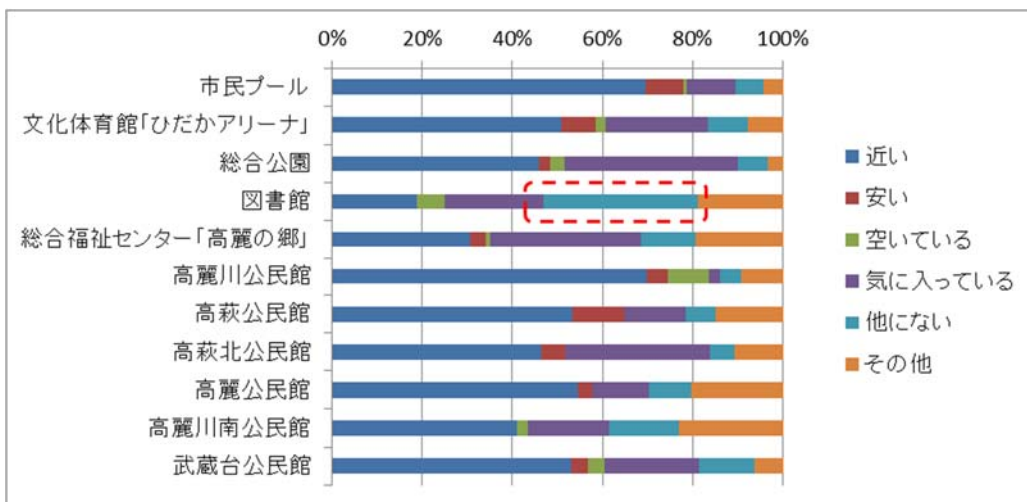
図表3-30 利用時間帯比較



⑥施設選択理由

近いという理由が多い。図書館（貸館）では代替施設がないという理由が多い。図書館については、公民館の代替として利用している可能性があるためこのような傾向が見受けられたものと思われる。

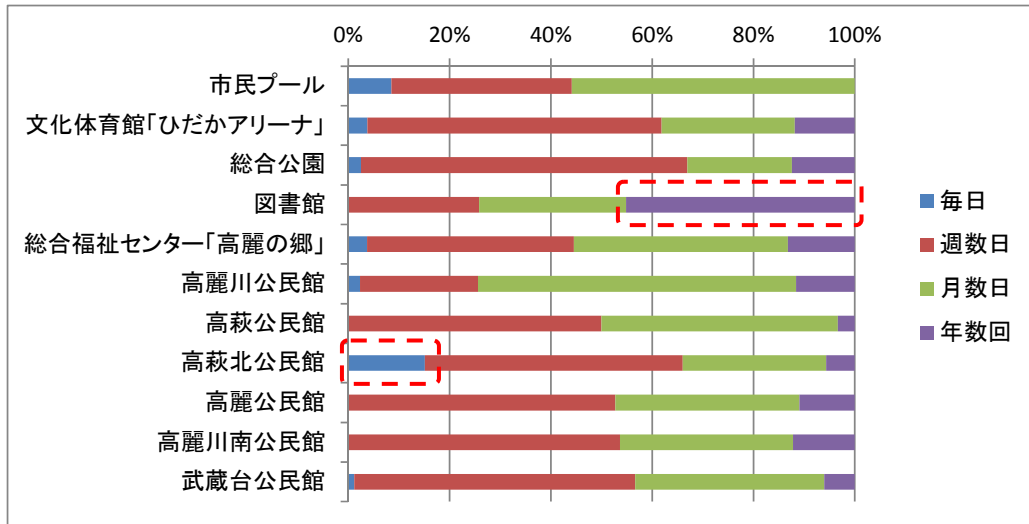
図表3-31 施設選択理由比較



⑦利用頻度

図書館（貸館）は年数回というあまり利用していない方も多い。高萩北公民館は他の公民館と比較して毎日利用する人の割合が高い。図書館については、公民館の代替として利用している可能性があるためこのような傾向が見受けられたものと思われる。高萩公民館の傾向は、アンケートの配布方法やその時期の事業等の影響も考慮する必要がある。

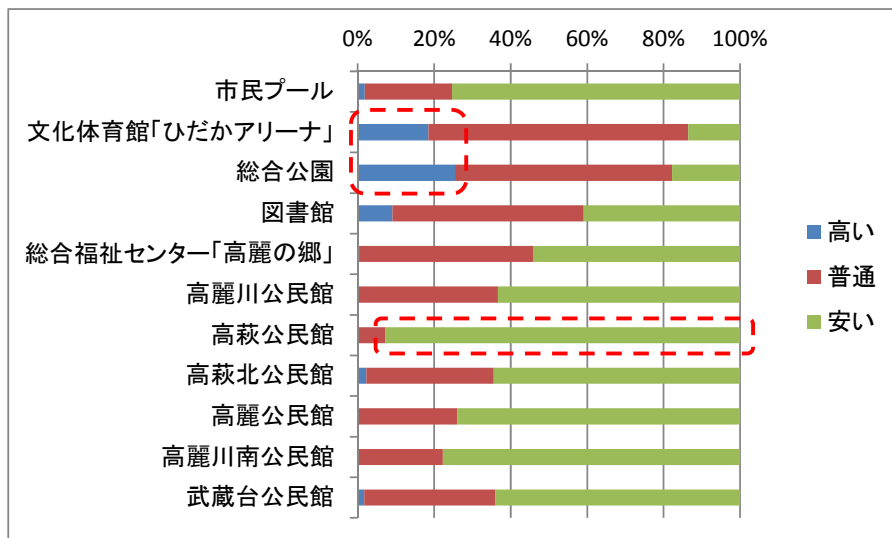
図表3-32 利用頻度比較



⑧利用料金についての意見

他の施設と比較して、文化体育館「ひだかアリーナ」と総合公園は利用料金を高いと感じている人が多い。公民館の中でも高萩公民館は利用料金が安いと考えている人が多い。

図表3-33 利用料金についての意見比較



(3) 利用者アンケート調査結果から考えられる施策の方向性仮説

文化体育館「ひだかアリーナ」及び総合公園は市外利用者も多いことから他市との広域化の施策を考えることができる。

市民プール及び公民館は利用料金を安いと感じている人が多いことから、今後の公共施設の在り方を考えていくときに施設の維持管理費と利用者負担の割合をしっかりと可視化して説明していくことで、利用料金適正化の議論を進めやすい施設であるとも考えることもできる。